

下野市立国分寺小学校

1 学校課題

文章を解釈し、自分の思いや考えを表現できる児童の育成
 ～ 国語科の「読むこと」（説明的な文章）の指導を通して（3年次）～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度までの取組から、効果的な指導を校内で共有し、継続して取り組んだことで、学年や学校全体で足並みのそろった指導を行えるようになってきた。また、学習のゴールに迫るための、単元で身に付けさせたい力や具体的な言語活動を示したり、児童と学習計画を立てたりしたことにより、目的意識を持って学び続ける児童の姿が見られた。今後は、本テーマを3年次の取組として継続しつつ、「習得」した的確に読む力を「活用」し、書く活動との関連を図った言語活動をより充実させることで、目指す児童像に向けた指導につながるものと考えている。

(2) 研究の仮説

説明的文章を読む際に、根拠をもとに筋道を立てて筆者の考えを捉えて、自分の考えを相手に伝わるように表現できる指導方法を工夫すれば、論理的な思考力や生活で生きて働く力が育つであろう。

3 研究内容

(1) 目指す子ども像に迫るための課題と具体的な手立て

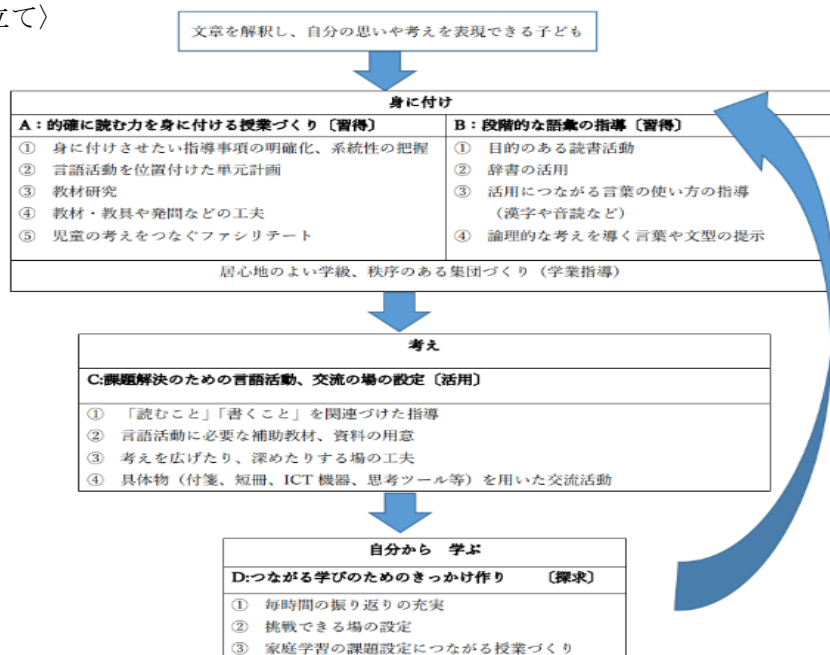
〈目指す子ども像〉

文章を解釈し、自分の思いや考えを表現できる子ども

〈目指す子ども像に迫るための課題〉

- ① 的確に読むために必要な力を明確にし、児童が確かな知識や技能として習得できるような、系統的、段階的な指導を行うことが必要である。
- ② 読みの力や考えの表現など、学びを深めるために書く活動との関連を図り、習得した「的確に読む力」を活用して、課題解決のための言語活動を充実させたい。
- ③ 相手に伝わるように自分の思いや考えを表現するためには、目的ある読書活動や辞書の活用を通して、言語能力を支える語彙の段階的な獲得が必要である。

〈具体的な手立て〉



(2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	種別	学年	単元名	課題追究のための手立て
6月中旬	低ブロック	2年	「たんぽぼのちえ」	A④、C②、C③
7月上旬	中ブロック	4年	「アップとルーズで伝える」	A②、C③
	S&U		「さとうとしお」 宇大附属小教諭による模擬授業	
9月中旬	中ブロック	3年	「すがたをかえる大豆」	A②、A④、B④
10～11月	特別支援	全	自立活動	
11月下旬	高ブロック	5年	「固有種が教えてくれること/自然環境を守るために」	A④、C②、C③、C④
12/3	S&U	5年	「固有種が教えてくれること/自然環境を守るために」	A④、C②、C③、C④
12月中旬	高ブロック	6年	「『鳥獣戯画』を読む」	A②、C②、C③
1月下旬	低ブロック	1年	「どうぶつの赤ちゃん」	B③、C①、C③

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 説明的な文章における効果的な指導を校内で共有し、継続して取り組んだことで、どの学年でも「読む」活動と「書く」活動の関連が図られ、多くの児童が課題解決のための言語活動に取り組めるようになってきた。
- ② ブロックで共同研究を進め、全員が低・中・高学年の授業を参観することで、学びのつながりを意識し、効果的な指導方法や教材・教具について学校全体で理解を深めることができた。
- ③ 指導案に評価規準や具体的な児童の状況を記すことで、その達成に必要な活動や手立てを意識した授業となり、児童の学びがよりよいものになってきた。

(2) 研究の課題

- ① 目的に応じた対話や交流の方法について、工夫、改善したり、普段の授業から何度も経験を重ねたりすることが必要である。
- ② 語彙を豊かにするため、今後も日常的な指導の充実を図る必要がある。
- ③ 学習指導要領「知識及び技能」における情報の扱い方についての理解を深める必要がある。

